

4 中学校 音楽科 問題用紙

(3枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

1 あとの1～3に答えなさい。

1 次の楽譜は、「ある楽曲」の一部を移調、改編して示したものです。これに関して、下の(1)～(4)に答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

kyosai-guild

(1) 「ある楽曲」の作曲者が活躍した時代は、西洋音楽史において何とよばれていますか。書きなさい。

(2) 西洋音楽史において、「ある楽曲」の作曲者と同じ時代に活躍した作曲者として適切なものを次の(ア)～(エ)のうちから2つ選び、その記号を書きなさい。

(ア) J. ハイドン (イ) J. ブラームス (ウ) W. A. モーツァルト (エ) P. I. チャイコフスキー

(3) 「ある楽曲」とは何ですか。次の(ア)～(エ)のうちから選び、その記号を書きなさい。

(ア) 交響曲第5番ハ短調 (イ) 交響曲第6番ヘ長調 (ウ) 交響曲第7番イ長調 (エ) 交響曲第9番ニ短調

(4) この楽譜を、次の【条件】に従って編曲し、解答欄の五線譜に書きなさい。ただし、小節数は任意とします。

【条件】

- ① アルトリコーダーによる二重奏とすること。
- ② 拍子は、4分の3拍子とすること。
- ③ 三部形式とすること。
- ④ 速度に変化をつけること。
- ⑤ 強弱に変化をつけること。
- ⑥ アーティキュレーションに変化をつけること。
- ⑦ 調と和音進行は変更しないこと。
- ⑧ 完全1度で終止すること。

4 中学校 音楽科 問題用紙

(3枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

2 次の(1)～(6)は、アメリカ起源のポピュラー音楽について説明したものです。それぞれ何と呼ばれる音楽ですか。下の(ア)～(ク)のうちから選び、その記号を書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- (ア) ラップ (イ) ブルース (ウ) カントリー・アンド・ウェスタン (エ) ゴスペル
(オ) ジャズ (カ) フォーク (キ) リズム・アンド・ブルース (ク) グランジ

3 次の(1)～(6)のテクスチュアに関する語句の説明として適切なものを、下の(ア)～(ク)のうちからそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

(1) ホモフォニー	(2) ドローン	(3) インターロッキング
(4) ヘテロフォニー	(5) モノフォニー	(6) オスティナート

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(3枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 2 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 音楽 第2 各学年の目標及び内容 [第2学年及び第3学年] 2 内容 A 表現 (1) イ (7) には、「曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり」について理解することと示されています。このことを基に、「花」(滝廉太郎作曲、武島羽衣作詞)を教材として取り上げて指導する場合、どのような学習活動が考えられますか。次に示された生徒の状況を踏まえ、題材名をあげて、3時間で扱う学習活動を書きなさい。

	<対象学年> 第3学年
生徒の状況	生徒はこれまでに、「赤とんぼ」や「荒城の月」を歌唱する活動を行った。 生徒は、どのように表現したいかに関して自分の考えをもつことはできているが、自分が表現したいことの原因を歌詞の表す心情と関連させて考えることについては十分ではない。

- 3 第1学年の創作の授業において、「イメージをもって、構成を工夫して音楽をつくろう」という題材で、グループに分かれて、アンサンブルの音楽をつくることを指導することとします。生徒は、表したいイメージをもつことはできています。しかし、音素材の特徴や構成上の特徴について理解することが十分ではありません。この授業において、生徒に音素材の特徴や構成上の特徴について理解させるためには、どのような指導が考えられますか。具体例を2つ書きなさい。

- 4 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 音楽 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1 (4) には、次のように示されています。このことに関して、下の1・2に答えなさい。なお、[共通事項]とは、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示したものです。

(4) 第2の各学年の内容の㊸「A表現」の(1)、(2)及び(3)並びに「B鑑賞」の(1)の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、必要に応じて、㊹「共通事項」を要として各領域や分野の関連を図るようにすること。

1 文中の下線部㊸について、「A表現」に示されている分野を3つ書きなさい。

2 文中の下線部㊹に関して、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 「[共通事項]を要として各領域や分野の関連を図るようにすること」とは、どのようなことですか。書きなさい。

(2) [共通事項] (1) ア には、「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。」と示されています。知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとは、どのようなことだと考えられますか。生徒の発言を想定して、その具体例を書きなさい。

4

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち1)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

問題番号			解答欄
1	1	(1)	
		(2)	
		(3)	

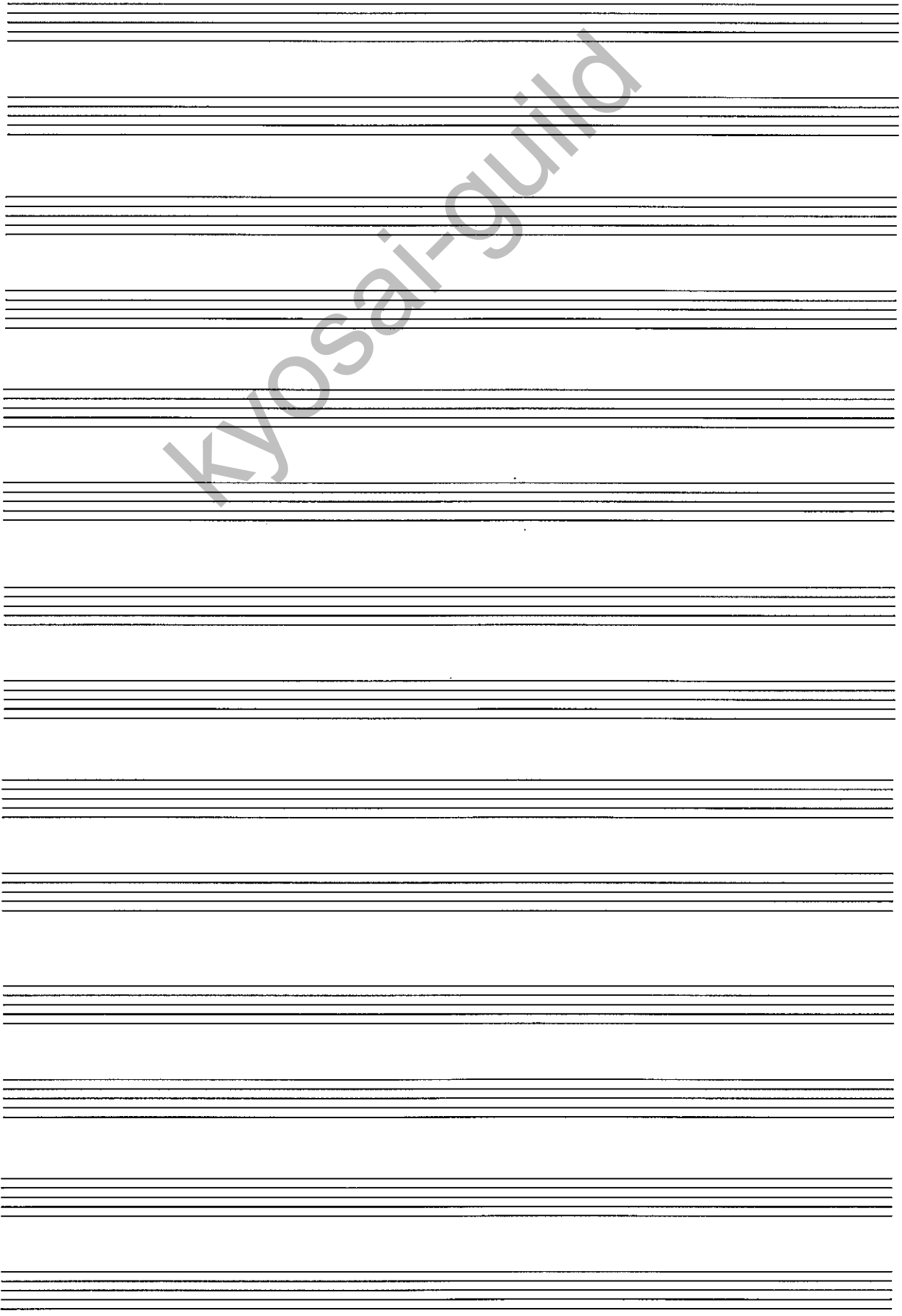
kyosai-guild

4

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号			解答欄
1	1	(4)	

4

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄	
1	2	(1)	
		(2)	
		(3)	
		(4)	
		(5)	
		(6)	
	3	(1)	
		(2)	
		(3)	
		(4)	
		(5)	
		(6)	

4

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち4)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄			
2	題材名 ()			
	<table border="1"><thead><tr><th>時間</th><th>学習活動</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td></tr></tbody></table>	時間	学習活動	
時間	学習活動			

※ 必要に応じて線を引いてもよい。

4

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち5)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄
3		
4	1	
4	(1)	
	2	
	(2)	

中学校音楽科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	(1)	古典派	古典派の時代 もよい。	3
		(2)	(ア), (ウ)	順序は問わない。 2つとも合っているものだけを正答とする。	4
		(3)	(エ)		2
		(4)	※ 別紙 (計1枚)		40
	2	(1)	(エ)		各 3 × 6
		(2)	(キ)		
		(3)	(オ)		
		(4)	(イ)		
		(5)	(ウ)		
		(6)	(ア)		
	3	(1)	(キ)		各 3 × 6
		(2)	(ウ)		
		(3)	(イ)		
(4)		(エ)			
(5)		(ア)			
(6)		(カ)			

85

中学校音楽科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点								
2	<p>題材名 (歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 5%; text-align: center;">時 間</th> <th style="text-align: center;">学 習 活 動</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">第1時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「花」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもつ。 ・ 「花」のCDを聴いて印象を自由に話し合う。 ・ 「花」の歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などについて気付いたことをワークシートに書く。 ・ 書いたことを基にして学級全体で話し合い、他の生徒の意見でよいと思ったことをワークシートに書き加える。 ○ 「花」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・ 「花」を歌いながら、リズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。 ・ 音楽の特徴と歌詞の内容を線で結ぶ。 ・ 音楽の特徴と歌詞の内容との関わりを意識して「花」を歌う。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">第2時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習曲である「荒城の月」と対比しながら、「花」のリズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。 ・ 二つの曲の雰囲気の違いを基に、「花」のリズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚・感受し、知覚したことと感受したこととの関わりについて「花」と「荒城の月」を歌い比べながらグループで考える。 ・ 考えたことを基に、音のつなげ方やフレーズの捉え方、強弱などを変えて様々に歌い試しながら、「花」にふさわしい音楽表現についてグループで考え、どのように歌うかについての思いや意図をワークシートに書く。 ・ ワークシートに書いたことを発表し合う。 ・ グループや学級全体で歌い試しながら、「花」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現について考える。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">第3時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 創意工夫を生かして「花」を歌う。 ・ 前時で取り組んだ音楽表現の創意工夫を想起しながら、曲にふさわしい音楽表現となるよう、学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などをいろいろと試す。 ・ どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったりより具体的になったところがある場合は、ワークシートに加筆修正する。 ・ 思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 ・ 「花」を学級全体で歌い、学習全体を振り返り、歌詞の内容、曲想、音楽の構造などに触れながら、学んだことをワークシートに書く。 </td> </tr> </table>	時 間	学 習 活 動	第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「花」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもつ。 ・ 「花」のCDを聴いて印象を自由に話し合う。 ・ 「花」の歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などについて気付いたことをワークシートに書く。 ・ 書いたことを基にして学級全体で話し合い、他の生徒の意見でよいと思ったことをワークシートに書き加える。 ○ 「花」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・ 「花」を歌いながら、リズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。 ・ 音楽の特徴と歌詞の内容を線で結ぶ。 ・ 音楽の特徴と歌詞の内容との関わりを意識して「花」を歌う。 	第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習曲である「荒城の月」と対比しながら、「花」のリズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。 ・ 二つの曲の雰囲気の違いを基に、「花」のリズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚・感受し、知覚したことと感受したこととの関わりについて「花」と「荒城の月」を歌い比べながらグループで考える。 ・ 考えたことを基に、音のつなげ方やフレーズの捉え方、強弱などを変えて様々に歌い試しながら、「花」にふさわしい音楽表現についてグループで考え、どのように歌うかについての思いや意図をワークシートに書く。 ・ ワークシートに書いたことを発表し合う。 ・ グループや学級全体で歌い試しながら、「花」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現について考える。 	第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 創意工夫を生かして「花」を歌う。 ・ 前時で取り組んだ音楽表現の創意工夫を想起しながら、曲にふさわしい音楽表現となるよう、学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などをいろいろと試す。 ・ どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったりより具体的になったところがある場合は、ワークシートに加筆修正する。 ・ 思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 ・ 「花」を学級全体で歌い、学習全体を振り返り、歌詞の内容、曲想、音楽の構造などに触れながら、学んだことをワークシートに書く。 	<p>題材名は、問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。</p> <p>学習活動は、問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。</p>	65
時 間	学 習 活 動										
第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「花」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもつ。 ・ 「花」のCDを聴いて印象を自由に話し合う。 ・ 「花」の歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などについて気付いたことをワークシートに書く。 ・ 書いたことを基にして学級全体で話し合い、他の生徒の意見でよいと思ったことをワークシートに書き加える。 ○ 「花」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・ 「花」を歌いながら、リズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。 ・ 音楽の特徴と歌詞の内容を線で結ぶ。 ・ 音楽の特徴と歌詞の内容との関わりを意識して「花」を歌う。 										
第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習曲である「荒城の月」と対比しながら、「花」のリズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。 ・ 二つの曲の雰囲気の違いを基に、「花」のリズム、旋律 (音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚・感受し、知覚したことと感受したこととの関わりについて「花」と「荒城の月」を歌い比べながらグループで考える。 ・ 考えたことを基に、音のつなげ方やフレーズの捉え方、強弱などを変えて様々に歌い試しながら、「花」にふさわしい音楽表現についてグループで考え、どのように歌うかについての思いや意図をワークシートに書く。 ・ ワークシートに書いたことを発表し合う。 ・ グループや学級全体で歌い試しながら、「花」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現について考える。 										
第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 創意工夫を生かして「花」を歌う。 ・ 前時で取り組んだ音楽表現の創意工夫を想起しながら、曲にふさわしい音楽表現となるよう、学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などをいろいろと試す。 ・ どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったりより具体的になったところがある場合は、ワークシートに加筆修正する。 ・ 思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 ・ 「花」を学級全体で歌い、学習全体を振り返り、歌詞の内容、曲想、音楽の構造などに触れながら、学んだことをワークシートに書く。 										

中学校音楽科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
3	マリンバやシロフォンなどの楽器による音色の違いや、マレットの種類による音色の違いを、実際に音を鳴らすことによって知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、用いる音素材を決めていくことができるような活動を通して、表したいイメージと関わらせながら音素材の特徴について理解できるようにしていく。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。	各 10 × 2	20
	ある短い旋律やリズム・パターンを反復、変化させながら、ある程度の長さをもった音楽をつくったり、旋律やリズム・パターンを重ねながら、複数声部による音楽をつくったりしていくような活動の過程で、音を出し、それを聴くことを通して、実感を伴いながら理解できるようにする。			
4	1 歌唱， 器楽， 創作	順序は問わない。 3つとも合っているものだけを正答とする。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10	30
	2 (1)	その題材の学習において主として扱う音楽を形づくっている要素やそれらに関わる用語や記号などを共通に設定して複数の領域や分野を関連させた一題材を構想したり、主として扱う音楽を形づくっている要素やそれらに関わる用語や記号などの一部を共通にして、学びの連続性や系統性などをねらって複数の題材の配列の仕方を工夫したりすること。	10	
	(2)	「フルートによる第二主題が、クラリネットによる第一主題より軽やかに感じられるのは、主題を演奏する楽器の音色が変わって、音が高くなり、旋律のリズムも小刻みになったから」と考えることや、「ドンドコドンドコというリズムと和太鼓の音色から、日本的で、踊り出したくなるような音楽だと感じる」と考えること。	10	

1

1 (4)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。